

ケアプランデータ連携システムについて

「ケアプランデータ連携システム」とは、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所との間で毎月やりとりされるケアプランの情報をデータ連携するシステムです。令和5年4月より本格的に運用が開始となりました。

システムを利用することで、介護事業所の文書作成に要する負担が大幅に軽減されることが期待できます。また、支援事業所とサービス事業所の双方において、提供されたケアプランの手入力による作り直し作業をなくせることにより、請求エラー（返戻）の減少が期待できます。介護サービス事業所の皆様は積極的に利用していただくようお願いします。

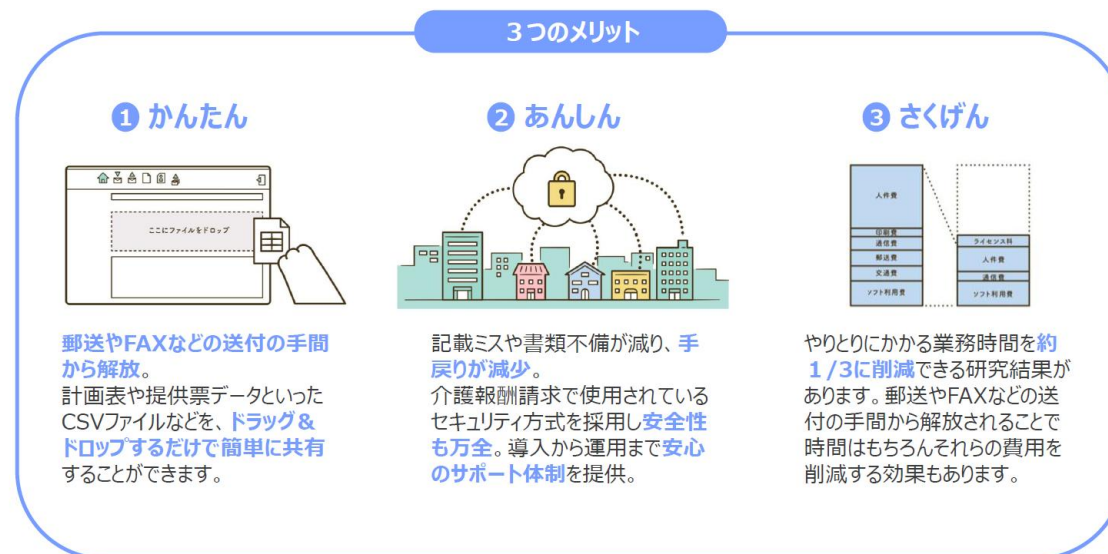


（公益社団法人国民健康保険中央会の資料から抜粋）

◆ケアプランデータ連携システムの概要

ケアプランデータ連携システムを利用することで、サービス提供表や居宅介護サービス計画書など、手書き、印刷し、ファックスや郵送でやり取りしていた書類を、システム上でデータの送受信ができるようになります。

送付の手間や記載ミスが減り、業務負担削減と経費削減が期待できます。



（公益社団法人国民健康保険中央会の資料から抜粋）

◇詳しくは、下記 国民健康保険中央会HP又はケアプランデータ
連携システムヘルプデスクサポートサイトをご確認ください。

<国民健康保険中央会 HP>

<https://www.kokuho.or.jp/system/care/careplan/>

<ケアプランデータ連携システムヘルプデスクサポートサイト>

<https://www.careplan-renkei-support.jp/>